

保護者向け 放課後等ディサービス自己評価表

令和6年度（令和7年 3月実施）

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見・ご要望(回答及び事業所の考え)
環境・ 体制整備	1	子どもの活動などのスペースが十分に確保されているか	55%	36%	9%	(意見)見学・体験・契約の時に各部屋の説明を受けました。数年経っているので適正かは、わからない。 (回答)指定基準を満たしています。身体の成長に伴い隣接する部屋と一緒に使用するなど工夫をしています。ロッカーや本棚、玩具入れ等1箇所集め、部屋の中央部分を広く使用できるよう工夫しております。また、利用者が活動に集中出来るよう(玩具や本が視界に入らないよう)ボックスカーテンで仕切っています。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	81%	19%		(回答)月平均利用者数8名前後に対し、職員3名、児童発達支援管理責任者・管理者兼務1名、計4名前後(非常勤含む)の体制です。毎月利用者の方の希望表作成後、職員のシフトを作成しております。児童発達支援管理責任者が保育士・ガイドヘルパー資格・応急手当講習受講・防火管理者受講などとしています。
	3	考え得る危険等防止等に対して適切と言えるか	73%	27%		(回答)部屋の角や、でっぱりにはゴム製のカバーをかけています。地震による転倒防止グッズをロッカーに装着しています。
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析されたうえで、放課後等ディサービス計画が作成されているか	91%	9%		(回答)毎月始めに月の活動予定表を配布し、家庭で期待や振り返りの機会を持てるようにしています。
	5	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	89%	11%		(意見)調理や工作、運動等毎日いろいろな活動おして頂き有難うございます。外出が増えて嬉しいです。 体を動かしたり、工作をしたり・・・バラエティーに富んだ活動で、楽しく組み立てて頂き感謝致しております。 (回答)(回答)保育5領域をベースとした活動プログラムを作成しています。月曜日から金曜日の5日間でワンクールし、利用者が同じ領域のサービス提供にならないように心掛けております。個々のニーズや目標に沿って組み立てている為、年齢層が大きいことでの難しさはありますが、出来る限り日々ご本人が輝く姿が見られるように支援を行っております。
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	18%	82%		(意見)コロナの時期には、難しいので仕方ないことだと思えます。 (回答)コロナ禍前には、長期休暇や祝日に児童センターや図書館を利用していました。交流よりも同じ空間を共有する事から始めていました。現在は、利用しておりませんが、状況を見ながら判断していく考えでおります。

保護者への説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされているか。	95%	5%		契約時に「重要事項説明書」「利用契約書」において説明させて頂き、かつ個別支援計画にそって個々の目標に対する支援内容・取り組みについて説明させて頂いております。状況によっては、振り返りの時間を作り、再度説明もしくは変更となる場合もあります。
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	90%	10%		(意見)いつも有難うございます。長期・短期目標の際の評価表のまとめでは、とても良く子どもの様子や変化を見てもらい、感謝しています。 (回答)毎日の連絡帳のやりとりの中、状況や課題(見通し)等を伝えています。また、1つの活動が生活の中でどのように生かされていくのか、なども必要に応じて伝えています。
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか。	90%	10%		(意見)いつも有難うございます。 (回答)連絡帳を介して悩みや気になる事について細かく説明しています。時間が必要な場合は、面談を行います。また、電話(メールも含む)でも行っています。兄弟姉妹との関係作り等についても、支援をしています。
	10	父母の会の活動を支援したり、保護者会などを開催するなどにより、保護者同士の連携を支援しているか。				(意見)コロナの時期には、難しいと思っていました。コロナが落ち着いたらまた、親子で参加できるイベントができればいいな、と思います。 (回答)コロナ禍以前には、年1回～2回親子参加のスポーツ大会・食事会(調理)を行っていました。場所の確保などがありますので、関係機関(施設)の状況などを見ながら、どのようなスタイルが良いか、検討させていただきます。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に、迅速かつ適切に対応しているか。	100%			(回答)子ども(利用者)間のトラブルについては、状況を整理する・前後の出来事・関係者(対利用者及び職員)からの聴き取りなど迅速に対応し、保護者の方には電話もしくは連絡帳でお知らせしています。状況により、直接ご自宅へ説明に伺う場合もあります。忘れ物をしないように・・と言う点は、当事業所到着時、荷物の確認(数も)職員と一緒に利用者自身がやっていく方向で進めています。週末・学期末はは荷物が多くなるので、紐や袋などで一組にしたり、と工夫しています。もしも、忘れ物があった場合には、こちらから電話連絡をしお届けしています。
	12	子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされているか。	91%	9%		(回答)子ども(利用者)とのコミュニケーションについては、各個人によって性格や環境を考慮し、よりよい支援になるように日々工夫しています。保護者の方については、出来る限り直接お話ができる時間を設けるように心得ております。

13	定期的に開放やホームページなどで、活動概要や行事予定、連絡体制などの情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%			(回答)事業者のブログにて活動内容や様子、子どもたちの声を発信しています。自己評価につきましては、ホームページをご覧ください。
14	個人情報に十分注意しているか。	100%			(回答)契約時に「重要事項説明書」「放課後デイサービス利用契約書」並びに「個人情報使用契約書」を取り交わしています。写真などブログに掲載する際には、再度使用について確認する等注意しています。職員については、雇用契約書で「個人情報(秘密の保持)」記載しており、退職後も同じとすると取り決めしています。
15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染防止対応マニュアルを策定し、保護者に周知、説明されているか。	85%	15%		契約時の際に、説明をしております。マニュアルにつきましては、各ご家庭に「緊急時・災害時についてのお知らせ」文書を、感染防止につきましては、インフルエンザ・コロナについてのお知らせ文書を配布しております。
16	非常災害の発生に備え、定期的に避難・救出その他の必要な訓練が行われているか。	90%	10%		(回答)地震・火災を想定した訓練を行っております。但し、地震では、聴覚過敏の利用者の方には、東日本大震災の際の災害アラート音が甦り、混乱する状態になる事が多々あります。学校での避難訓練の積み重ねから、徐々に慣れてきた様子が伺われますが、極力音無しで「揺れている」と言う声で伝え、段階を追って避難(避難場所への誘導)へと繋げております。揺れが治まるまでは・・と職員の声を聴いて、身を守る為の行動を確認しながら実施しております。避難場所については、散歩や公園遊びの中に組み込み実際に歩いて行き、避難場所であることの説明をしています。火災については、調理活動では、電気機器を使用するので火を直接使う状況が殆どありません。但し、実際災害が起こった時を想定し、避難経路を移動し、あすなろ駐車場で一時待機する等の訓練を行っております。送迎時については、学校からの災害時に於ける避難についての連絡を基本に、災害が起こった時間によって「学校敷地内で待機」または「学校外(送迎ルート内)での待機」と分けております。事業所に到着してからは、避難場所(井野小・井野つ子山公園・安坂山公園)に移動または、事業所内で待機し、保護者の方へ連絡すると言う流れになっております。何かご質問等がありましたら、連絡下さい。
17	「今日はなにかをしようかな」と活動予定表を確認して「よお〜し」と気合を入れ毎回楽しみにしています。」 ・「今日は、何をしたの?」と聞くと「〇〇さんといっしょに・・・〇〇して・・・こうなりました。教えてくれた、また、お友達の名前も覚えて・・・」	85%	80%	80%	(意見)「今日はなにをしようかな」と活動予定表を確認して「よお〜し」と気合を入れ毎回楽しみにしています。」 ・「今日は、何をしたの?」と聞くと「〇〇さんといっしょに・・・〇〇して・・・こうなりました。教えてくれた、また、お友達の名前も覚えて・・・」

	17	子どもは通所を楽しみにしているか。	95%	3%	2%	「なつしっ」で教えてくれます。また、お友達の名前も見え、増え、来ました。・毎日、とても楽しみにしています。ありがとうございます。 (回答)嬉しいお言葉有難うございます。今後も、子ども達と一緒に過ごす時間の中で様々な発見をしたいと職員一同思っています。
	18	事業所の支援に満足しているか。	97%	3%		(意見) ・引っ越しの際にも、遠くなってしまいましたが、今まで同様に送迎して頂き助かりました。何よりも本院が楽しく過ごしており、満足して帰宅していたことに大変感謝しています。 ・月の活動の予定表があることで、帰宅後にどうだったの？なにをしたの？親子で会話する時間が増えました。 ・活動の内容を、身振り・手振りで教えてくれます。バリエーションに飛んでいて楽しそうです。土曜日などは、いつもより興味深い事が多く、我が子の意外な一面を発見しています。・家ではできない経験を沢山させて頂き、感謝しています。(回答)コロナによる制約された(期間)生活の中で、如何に楽しく・危険無く、創造する力を育むなど、引き続きあそびを展開し、生活の中で生かせることが増えるよう引き続き支援を行いたいと思います。
	18	定期的にモニタリングを行い放課後等サービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			利用者の方の個々の特性を生かしつつ、出来る範囲で保育・教育の両面を含み、更には趣味・家庭でも実践できる内容へと繋げていけるように心掛けています。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	○			児童発達支援管理者を中心に、現場の職員も個々の状況によっては参画しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定などの交換、子どもの下校時刻の確認等)連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	○			特別支援校は、年間計画(行事を含む)を郵送又は、手渡しにて情報共有しています。支援級に於きましては、保護者の方からの連絡が主です。学校、学年がばらついていますので、月単位や週単位での情報共有としていても、突発的な時間変更もありますので、随時、連絡帳・電話・メールでの共有は必要、かつ協力して頂いております。

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			○	看護師資格がある職員は、配置しておりませんので、医療的ケアのあるお子さんの受け入れは、行っておりません。
	23	就学前に利用した保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			保護者の方(利用希望の方)からの問い合わせの際に、了承を得て現在までの状況等を聴き取りしています。また、児童発達支援センターを利用されていた方につきましては、保護者の方の同意を得て、情報共有の機会を設けております。同時に、サポートファイルの活用も行っております。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容の情報を提供等しているか		○		現在までの期間、問い合わせ等特にありません。相談支援事業所によっては、卒業前のモニタリングの際に、ご本人の状況をお伝えしております。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センターなどの専門機関と連携し、助言や研修を行っているか。	○			地域にある児童発達支援センターに、アドバイス(専門職も含む)をもらって、活動のヒントにしております。研修(会議)は、定期的に行われているので参加しています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。		○		コロナ禍になる前には、土曜・祝日には地域にある、図書館や児童センターを利用していました。交流にはなりませんでしたが、同じ空間で遊ぶ経験として行っていました。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○			佐倉市で実施されている「佐倉市障害者総合支援協議会」「佐倉市療育支援部会・児童通所支援事業所連絡会」への参加をし、情報収集・共有をしております。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			毎日の連絡帳を通して、気になる事や出来事を共有し、送迎時などでの話から「困っている事」等、常に耳を傾け、すぐに対応するように心掛けております。発達の状況については、個々への配慮・守秘義務を考慮し、主として電話での対応をしております。
						幼少期に療育施設・幼稚園・保育園・認定こども園等の利用(単独又は併用)する中で母子関係を築き学童期へ進むと言う流れが現在の子育てで見られます。この時期をベース作り期間、学童期に入ると、学校、保護者、本

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニングなどの支援を行っているか。			○	つれより。この時期は、ヘトフ延べ、ナ里初にハるこ、ナ休「保護者」本人のトライアングルの形の中で子育てが行荒れて行くと考えております。放課後等ディサービスは、3者の間に位置し、橋渡しの関係性を持っていると考えております。よって、常に利用者本人の様子から家庭や学校・友達関係がどのようになっているのか、環境的な面・健康面などを考慮し、保護者⇔ディサービス⇔学校とそれぞれの中での状況を把握し、ご本人並びに保護者間での悩み(壁)を考え、タイミングを探りつつ対応しております。トレーニングと言う言葉は、保護者にとって重たいイメージがあるのではないかと捉えているため、言葉を代えた対応・支援を行っております。
関係機関や保護者との連携	30	運営規程・支援の内容・利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			新規契約、又は受給者証更新時期の契約、利用者負担変更などがあった時に行っています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○			子育てに正解があるのか、ないのか、人生経験を積んだ者さえわかりきれないのが現実です。保護者である親も、また、その親にしすれば子どもと言う立場です。いろんな形で繋がっているのが家族であり母子・父子・兄弟姉妹関係です。色々な視点から保護者の方と一緒に考え、前に進んで見たり、ちょっと一呼吸おいてみたりしています。少しでも、気持ちが楽になり、笑顔が増えるように心掛け支援しております。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会などを開催するなどにより、保護者同士の連携を支援しているか。		○		父母の会または、保護者会は現在ありません。保護者同士の連携支援としてコロナ禍前は、スポーツ大会や活動(調理)への参加を実施しておりました。その経験を元に今後は、どのようなスタイルが良いのか、利用者や家族の状況を考慮し、検討事項と考えております。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に、迅速かつ適切に対応しているか。	○			どのような苦情に対しても、その時の状況をまず確認する為、関わった職員に状況を聴く、その時点での利用者を含む他の利用者との関係も含めて「何が問題なのか」の整理をします。物理的な面での苦情については、環境を整え、新たな体制で支援を行います。人的な面では、正確な情報収集を行い、保護者への状況説明を行い、今後の支援について説明します。利用者の方への説明もその時々に応じて、保護者同席にて説明をします。